KIITO NEWSLETTER 044

特集——「ファクトリーKIIIIITO」の現場で起きたこと

START

2024/04/30（火）ミーティング初回
—
KIITOの館内で会場候補を見てまわり、＋クリエイティブスタジオに決定。

2024/07/23（火）ミーティング2回目

2024/09/19（木）ミーティング3回目

2024/12/10（火）会場最終下見

2025/01/12（日）学校やこども園などにポスターの制作協力依頼開始
—
今回の広報物は、エディション・ノルトがすべてデザインするのではなく、アーティストや一般参加者と協力して制作。たとえばポスターはロゴだけが入ったものを学校などに送付し、自由に絵を描いてもらったものを公式ポスターとした。

［連載企画］
◎ 神戸ぐらしはじめました。三浦康嗣さん
◎ 上野天陽さんの神戸めし
◎ 世界のデザイン都市［ニュージーランド・ワンガヌイ］

デザイン・クリエイティブセンター神戸では、デザイン・ユニットのエディション・ノルトによる展覧会「ファクトリー KIIIIITO」を開催（2025年3月15日–5月6日）しました。リソグラフや製本部材などが持ち込まれた会場では、日ごとの利用者による制作が行われ、エディション・ノルトによる展覧会でありながら、様々な人の手から生まれた制作物、試作品、その制作途中で生まれた端材などであふれていき、会場の様子も日ごとに変化していきました。今号の特集では、まさに共同でつくることの実践の場となった、この展覧会で起きていたことをあらためて振り返ります。

2025/01/26（日）チラシの公開制作
—
ゲストアーティストの平山昌尚さんが手にマッキーを装着してフリースタイルでチラシに直描き。そこに秋山さんがスプレーを吹き付ける。急きょ見学者にも参加してもらうことにして、早々に3000部が完成。

大きな空間で3000枚を人力で描き上げる作業は、参加者同士の体の動きや間合いに左手右手と動かし、こどももどんどん何かが上達して職人になったかのような楽しい体験でした。一枚一枚違うチラシが愛おしく感じられる素敵な制作でした。

［チラシ公開制作参加］
椎屋綾
［ΛΛみみ］主宰

2025/02/09（日）依頼先から戻ってきたポスターのチェック

2025/03/13（木）神戸市立宮本小学校での出張ワークショップ
—
3年生の美術の授業として、自画像の上に、未来の自分をイメージした絵を重ねてリソグラフで印刷。できた自分ポスターは会場でも展示することに。

こどもたちにとってリソグラフを自分たちで扱うのは今回が初めての機会。印刷する際、どんどん紙が送られてくる様子をみんなで眺めている姿が印象的でした。やってみたいことを思いついたらどんどん試すことができたので、子どもたちが自分の思いに合わせてチャレンジできていてよかったです。

［出張ワークショップ担当教員］
平井孝佳
神戸市立宮本小学校

2025/03/15（土）展覧会スタート
—
会場には、エディション・ノルトがデザインしたアートブックに加えて、様々なアートブック、過去のワークショップで制作された子どもたちがつくったポスターや陶器なども集められた。什器類は、KIITOの倉庫で見つけたものや、過去の企画で使ったきりになっていた物を秋山さんが構成する形で再活用。

03/18（火）

03/19（水）

2025/03/20（木）
会期中の制作利用者の募集日がほぼすべて埋まる。

03/22（土）

展示にも工房にも見えない、未完成な場としての展覧会

● 私たちは2010年末から拠点を東京から新潟へ移して活動していました。そこにデザイナーを目指している人から旅の途中で立ち寄ったという人までがインターン的に訪ねてくるようになりました。そのための部屋も設けていたので、年単位で滞在する人もいて、一緒にご飯をつくったりもしながら生活と渾然一体となって作業をするというのが、わりと日常的な営みになっていました。それともうひとつ、2019年の『大地の芸術祭』に参加した際に、ただアートブックを展示しても地元の人には届かないと思い、リソグラフなどの印刷機器を会場に置いて、制作の過程自体を見せながら印刷にも触れてもらう機会もつくるようにしました。

● そういった流れも受けての「ファクトリーKIIIIITO」でしたが、KIITOという場所の特性もあって、家族連れをはじめとして来場者の幅が広くて、特にご年配の方でリピーターになる人がいたのは他の会場にはなく新鮮でした。ご年配の方っていろんな技術や経験を持っていて、私たちが教えてもらうこともありました。他の人がつくっている様子を見ていろいろと話しかけたりして、私たちを飛び越して利用者と仲良くなっている方もいましたね。展示と工房の中間のような場だからこそ、いろんな楽しみ方ができる形になっていたと思います。きれいなテーブルに素材を並べて、どうぞ自由につくってくださいね、ではなくて、展示中なのか準備中なのか工房なのかもわからないような、散らかっていると感じ

神戸ぐらしはじめました。

神戸への移住、最近増えているそうです。神戸に越して間もないあの人に、気になる質問をぶつけてみました。

24人目
三浦康嗣さん
（音楽家）
神戸歴：1年4か月（取材時点）

[redacted]主宰。東京スカイツリー合唱団長。作詞、作曲、編曲、演奏、エディット、歌唱、サウンドエンジニア、舞台演出など、多角的に創作に携わる音楽家が神戸に引っ越した!? ということで、今回は塩屋にある三浦さんの立体音響スタジオにお邪魔しました。

Q.神戸での活動や暮らしの変化はいかがですか？

基本的に自分が今住んでいるところが一番いけていると思っています。ずっと東京を拠点にしていたんですが、お金がないと楽しめないまちに変わりつつあるように感じていて。その価値観にうんざりして離れたいと考えるようになりました。引越し前からグッゲンハイム邸に滞在したり、キッチンで住人のみなさんとご飯をつくって食べたりしていたので、塩屋にはその頃から友達ができて。塩屋の人たちと楽団をつくったり、「トライやる・ウィーク」（※中学生の職場体験活動）の受け入れ先になったり、不思議な吸引力でまちや人と自然と関わりが生まれました。今も仕事で定期的に東京へ出ますが、こちらがホームで、もう東京は「出稼ぎに行く場所」という感覚。東京で感じていたノリや人間関係が、塩屋のまちに凝縮されているようで、何の違和感もなく楽しく暮らしています。家は自由にDIYできるし、近所の道の駅で地域の食材が手に入るから食生活もいい。暮らしのプライオリティがすっかり変わりました。

イラスト：黄麗瑩

上野天陽さんの神戸めし

カフェデミタスの「焼きサンドイッチと珈琲」

上野さんの地元にして活動拠点の長田区丸山にあるカフェデミタス。店内は45年前から現在まで変わらず、内装やインテリアにもこだわりが詰まっている。「サンドイッチと珈琲が美味しいんです。コーヒーのカップは毎回違うんですよ」と迷わずオーダー。こんがり焼かれたトーストにトマト、ハム、きゅうりと卵がたっぷり挟まったサンドイッチはボリューム抜群。カップはアンティーク調のデザインが特徴的。
デミタスの奥様は上野さんの丸山での活躍をご存知のようで、「これからも頑張ってね」と笑顔で見送ってくれた。

カフェデミタス
兵庫県神戸市長田区西丸山町2丁目5-12

24.上野天陽さん（フリーランス）

長田区北部にある丸山地区をフィールドに、空き家の活用やまちづくりに関するzineや新聞の制作、場づくりなどの活動を行う。

5問でわかる

世界のデザイン都市ガイド

デザイン都市って何？ 世界の「デザイン都市」担当者に共通の質問を投げかけて解きほぐします。第31回は、ワンガヌイ川とともに歩み、共創の精神が息づくニュージーランド北島のデザイン都市・ワンガヌイから。

Q1「ここぞデザイン都市！」というスポット ／ Q2ワンガヌイのまちを舞台にした作品のおススメ ／ Q3最近、一番驚いたこと ／ Q4ハマっていること ／ Q5デザインをひと言でいえば

Vol.31 ニュージーランド・ワンガヌイ Whanganui

1 2024年開館の公立美術館「テ・ファレ・オ・レフア・サージャント・ギャラリー（Te Whare o Rehua Sarjeant Gallery）」。1919年建築の旧館を継承し、「Warren & Mahoney」と先住民族デザイングループ「Te Kāhui Toi o Tūpoho」が共同設計。先住民族のデザイン原理を取り入れ、ワンガヌイ川の神聖さと地域のアイデンティティを、川の光のきらめき「カーナパナパ（kānapanapa）」に重ねて表現しています。

2 ワンガヌイは多くの作家や映画制作者を魅了してきました。ロック曲「Pie Cart Rock'n'-Roll」（1957、ジョニー・クーパー作）は街のパイ屋台が舞台。映画『River Queen』（2005、ヴィンセント・ウォード監督）はニュージーランド戦争を描き、詩集『Flow: Whanganui River Poems』（2017、エアリニ・ビュートレイス著）はワンガヌイ川を主題にしています。

3 新たに始めたプロダクトデザイナー向けワークショップが1週間で満席に。地域のデザインへの関心の高まりを感じました。

4 神戸とワンガヌイの学生交流プログラムです。2026年、ワンガヌイの学生が甲南女子高等学校とKIITOを訪れ、「ユネスコ・デザイン都市」としての絆を深めます。

5 デザイン＝パートナーシップ。ワンガヌイでは「共創」を都市の強みとし、2017年の法律でワンガヌイ川に「法人格」を認め、開発を先住民族と協働で進めることを定めています。

答えてくれた人 Emma Bugdenさん
ライター兼アート・ストラテジスト、文化政策博士（Ph.D.）。「ワンガヌイ&パートナーズ」でクリエイティブ産業戦略を担い、「デザイン都市」申請を主導。現代美術キュレーターの経験を生かし、家族とゴンヴィル市民センター跡の再生に取り組んでいる。

今号のデザイナー ｜ エディション・ノルト　神戸Y3を拠点とするグラフィック・デザインとアート・ブックの出版をするユニット。「ファクトリーKIIIIITO」の記事参照。

KIITO NEWSLETTER
VOL.044

2026年3月発行

「KIITO NEWSLETTER」は、デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）が年4回発行する情報誌です。センターのコンセプトである+クリエイティブな活動を発信していきます。

発行：デザイン・クリエイティブセンター神戸
編集：竹内厚、KIITO出版部
デザイン：エディション・ノルト

ACCESS
阪急・阪神神戸三宮駅、JR三ノ宮駅より
フラワーロードを南へ徒歩20分
国道2号線を越えた神戸税関東向かい
神戸市営地下鉄海岸線三宮・花時計前駅より徒歩10分
ポートライナー貿易センター駅より徒歩10分
連節バス「Port Loop」KIITO前下車すぐ

CONTACT
デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）
〒651-0082 兵庫県神戸市中央区小野浜町1-4
TEL：078-325-2235
E-mail：info@kiito.jp
開館時間：9:00-21:00
休館日：月曜日（祝日、振替休日の場合はその翌日）年末年始12/29-1/3
https://kiito.jp/

03/26 (水)

03/27 (木)

03/28 (金)

03/29 (土)

03/30 (日)

04/02 (水)

2025/04/05 (土)

アーティスト、趣味でzineを作る人、リソ印刷に興味のある人、親子で制作する人も、いろんな利用者が連日やって来る。

2025/04/06 (日)

デザイナーの大田高充さんのトークイベント

—

タイポスクール出身の大田さんの話を通して、秋山さんが行っていたタイポスクールとエディション・ノルトの活動を振り返る時間となる。

04/08 (火)

2025/04/09 (水)

制作利用者がいない日は、フラッと来た来場者に声をかけ、その場で簡単な印刷体験をしてもらうことも。

04/11 (金)

04/12 (土)

04/13 (日)

04/15 (火)

04/16 (水)

04/18 (金)

2025/04/20 (日)

漫画家のえがしらはなこさんのワークショップ

—

くじ引きで出た言葉から連想した4コマ漫画を参加者それぞれで制作。えがしらさんの作品を含めて印刷、製本して、オリジナルの4コマ漫画マガジンをつくった。

zineやリソグラフに興味があったので、その両方を体験できる夢のワークショップでした。つくる時にコマ割りやインクの色を自分で選べたり、製本時も素材だけ渡されて自由に綴じたので「内容は同じだけどみんな違うzine」という想像していたよりもずっと自由な作品が完成して楽しかったです。

［ワークショップ参加］
あかしようこ
Printmaker

2025/04/20–05/06 (日–火)

本による経済的循環を目的とした「Book to Book Exchange」がスタート

—

ファクトリー内で完成した本と「本のようなもの」を物々交換する取り組み。

04/22 (火)

04/24 (木)

04/25 (金)

2025/04/26 (土)

美術家の山下和也さんによるワークショップ

—

古くから紙を綴じる時に使われてきた紙縒(こより)で綴じた、「手触り、目触り」のマイブックを制作。優れた古典の製本技術のひとつである紙縒綴じにハマる人が続出。

04/27 (日)

以前、綴じ穴に樹脂を流し込んだ装丁を試したら、紙釘装みたいと言われたことから和製本に興味を持ったそうで、当日は、リソで掛線などを印刷することにしました。持参した素材とも合わせ、みなさん素敵なマイブックを作りました。現代のテクノロジーと伝統的な手仕事がシームレスにつながる特別な手製本ができ、私にとって新鮮な発見でした。

［ゲスト］
山下和也
美術家／ARTS STUDYディレクター

2025/04/28 (月)

神戸市立青陽灘高等支援学校での出張ワークショップ

打ち合わせ時にはお互いがイメージする相違点と共通点について話し合いました。全学年の生徒たちが制作に向き合い、主体的に考え、動き、創造し、リソグラフの強みと一人ひとりのアイデアが共鳴し合った作品を完成させることができました。

［出張ワークショップ担当教員］
藤原千恵
神戸市立青陽灘高等支援学校教諭

2025/04/29 (火)

神戸の街に出て、テーブル・アレンジメント・ツアー開催

—

配膳された食器類を即興的に組み合わせる「#table_arrangement」に、平山昌尚さんと秋山ブクさんとともに神戸のカフェ3軒を巡りながら挑戦した。会場を飛び出してのイベント。

SNSで見ていたテーブルアレンジメントを目の前で見られるなんて！と観る側気分で応募したのですが、秋山さんと平山さんお二人の数々の技も学んで、参加後は自分でも喫茶時にアレンジメントにトライすることも。普段の仕事とまったく違う脳の使い方でよきです！

［ツアー参加］
鈴木尚子
会社員

05/01–02 (木–金)

絵描きのたにこのみさんが公開制作

「いつか自分の手で、ポストカードや絵本を印刷してみたい」という思いがありました。リソグラフ印刷を体験してみて、「インク交換や機械の調整など、印刷にも手間暇がかかっていて、人の温もりが入っているのだな」と感じました。

制作利用者
はにおかひさこ

05/03 (土)

05/04 (日)

2025/05/05 (月)

キュレーターの檜山真有さんによるトークイベント

—

ファクトリーといえば、アンディ・ウォーホルのスタジオというか、もはやサロンと化していた銀色で散らかった空間を思い出させる。集まってきた人たちがその場にいるだけで、あたかも彼の「作品」かのようなってしまうのは、本展との共通点ともいえよう。そう、ウォーホルも元々はデザイナー。彼はデザインが持つ求心力をもっとも華やかに発揮させる場所としてアートというフィールドを選んだ。エディション・ノルトの場合も同様の求心力を持ち、片足半分アートに突っ込んでいるかもだが、それは華やかさのためというよりかは、華やかさを下支えする土壌を豊かにするためのように思えてならない。ゆえに、デザインもアートもまぜこぜになるうちに分解されてゆくのである。

［ゲスト］
檜山真有
アートセンターBUG キュレーター

2025/05/06 (火)

展覧会最終日

この展示は、庭のような有機的な広がりを感じました。会期中、来場者による新たな制作物を展示するために、レイアウトが徐々に変化していきました。その様子は、生い茂る植物に合わせて行う庭の手入れに似たものがあると感じました。また、来場した方々と話すことで展示の新たな側面を知ることがしばしばあり、新芽を見つけたように心躍ったことを覚えています。

［会場スタッフ］
畠中美緒
プロダクトデザイナー

たまたま図書館に来た時にチラシを見つけて立ち寄りました。畠中さんに印刷の紙や色の合せとかアドバイスをもらいながら4点くらいつくったかな。それから、バラバラになってしまって困っていた本をミシン製本させてもらったり、穴をあければ結束バンドで簡単に製本できる方法を秋山先生から教えてもらったり。すごく勉強になった。展覧会の会場は雑然としているが、個人に閉じていない雰囲気も良かったですね。

［来場者］
フエフキ

05/26, 06/09 (月, 月)

神戸市立青陽灘高等支援学校出張ワークショップ

07/23–09/06 (水–土)

支援学校での出張ワークショップ成果展示

「自由に書いていい」というお題に対して、配布された紙に薄くガイドラインが引かれており、従うことを強制してはいないものの、自然と意識させる絶妙な工夫がありました。そのため描かれたポスターは自由でありながら、全体に不思議なまとまりを感じられて面白かったです。

［来場者、ポスター制作協力］
井上さんご一家

GOAL!!

る人もいるような展示空間の中で、楽しみかたを訪れた人の自主性にまかせた場ですから、やっぱりそこに常駐する人の存在も大事。制作する人を勇気づけたりもしながらアドバイスもできる先輩のような存在として、私たちもなるべく会場にいるようにしましたが、その役割は畠中というスタッフに担ってもらいました。

● 今回、学校などでのアウトリーチとして出張ワークショップを行って、そこで生まれた制作物も可能な限りですべて展示しました。優秀な作品を選考するようなことはしていません。手を動かしてつくること自体に価値があって、その点においてはすべて同じだけの価値があると思うんです。私たちはこどもたちの絵にいつも驚かされるし、そこではプロも素人もない。そういった価値観が、プロフェッショナルがつくるものにもどこかで接続するようになっていければいいなと思います。(談)

秋山伸、堤あやこ

—

エディション・ノルト

グラフィック・デザイナーの秋山伸と堤あやこが中心となり、プロジェクトごとに様々なデザイナーやアーティストと協働しながら本や展覧会をつくる出版レーベル／デザイン・ユニット。2010年末に秋山の故郷、新潟県南魚沼市へ移住。2021年に神戸へ移住。

KIITO: NEWS & TOPICS / 2026 Spring

What's on

こどもたちが考えた「工作」の水族館がオープン！

連続ワークショップの成果発表として、海や川、森や山に暮らす生き物たちをヒントに、ワークショップでこどもたちが想像力いっぱいに制作した“水族館”を展示します。生き物の色や形、模様、暮らしを観察しながら生まれた個性豊かな作品が並びます。発見とワクワクに満ちた世界にぜひお越しください。

みんなでKIITOに水族館をつくろう！
成果展示

日時：
2026年3月21日(土)～5月10日(日)予定
会場：プロジェクトスペース3B
入場：無料
講師：
マキコムズ
劇場型アクアリウムátoa
主催：
デザイン・クリエイティブセンター神戸

News

ウォーターフロントにフォトスポットが登場！

KIITOがコーディネートした、神戸在住のイラストレーター・サタケシュンスケさんによる《Animal Parade》がアリーナ北広場に設置されました。個性豊かな動物たちが行進するカラフルなアートが、ウォーターフロントの風景に新たな彩りを添えます。開放的な景色とともに、思わず写真に収めたくなるフォトスポット。ここでしか出会えない一枚を、ぜひお楽しみください。

期間：
2026年3月5日～夏頃(予定)
場所：
アリーナ北広場
(GLION ARENA KOBE 北側広場)

Report

潮風を感じる公園が茶室に。野点で楽しむ特別な一日

陶芸家・美術家のきむらとしろうじんじんによるアートプロジェクト「野点」をみなと公園で開催しました。リヤカーの窯で器を焼き上げる独特のスタイルで、参加者は自ら絵付けした器の焼き上がりを待ち、潮風を感じながらお抹茶を堪能。多彩な屋台の出店にまちあるきも行って、神戸の風景に笑顔が溶け合う特別な一日となりました。

きむらとしろうじんじん 野点 in 神戸

日時：2025年11月2日(日)
お昼頃から日没まで
会場：みなと公園
講師：きむらとしろうじんじん
(陶芸家・美術家)
主催：デザイン・クリエイティブセンター神戸

photo：成田舞